

だいせん市議会だより

あなたのギカイ

令和7年8月1日 第81号 5月臨時会・6月定例会の内容を分かりやすくお伝えします。

新たな試み「ワールドカフェ方式」で 活発な意見交換



CONTENTS

- こんなことが決まりました………… P 2
- 市政懇談会を開催しました………… P 5
- 聞いてみたいこんなこと………… P 6
- 豊成小児童が市議会で体験学習… P14
- きかせて！あなたのミライ………… P16

市政懇談会（はなび・アム、6月21日）

第1回臨時会 第2回定例会

議案審議

大仙市の こんなことが決まりました

第1回臨時会

会期1日間

5月2日

第2回定例会

会期22日間

5月29日～6月19日



令和7年
第2回定例会



令和7年
第1回臨時会

第1回臨時会	
専決処分報告……………	5件
単行案……………	3件
補正予算案……………	3件
第2回定例会	
人事案……………	3件
条例案……………	4件
単行案……………	1件
補正予算案……………	3件
陳情……………	1件
意見書……………	1件

今号では
この中から
5つを **Pick up**

全ての議案名と審議結果は、大仙市議会ホームページをご覧ください。



議案の審議結果

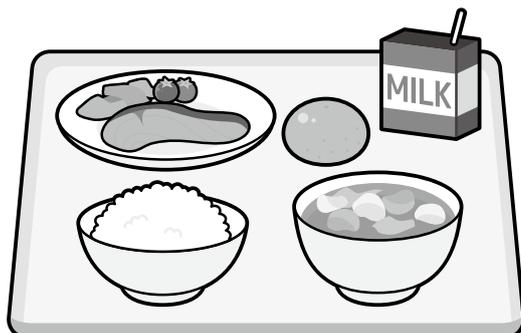
Pick up 1

中学生の給食費が無償に 市外通学やアレルギー対応にも補助

大仙市立の中学校に通う生徒の給食費を、令和7年4月分から無償化します。また、食物アレルギーなどの理由で弁当を持参している生徒や、市外の中学校に通う生徒については、保護者に給食費相当額の補助金を交付します。

こんな質問が出ました

- Q** 学校給食におけるアレルギー対応について伺う。
- A** 面談等で各自の状況を確認し、代わりとなるメニューで対応している。しかし、アレルギーを引き起こす原因は多様であり、どうしても対応が困難な場合は、保護者の了承の下、弁当持参となる。



Pick up **2**

プラスチック資源の収集日を 月2回に

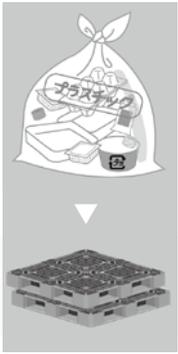
令和7年4月から始まったプラスチック資源の分別収集では、一部の集積所が満杯になるなど、市民の分別意識の高さがうかがえました。このため、7月から収集日を月2回に増やします。

こんな質問が出ました

Q プラスチック資源については、そのまま積み込むよりも、圧縮することで一度に多く運搬できる。近隣に圧縮する施設が存在しないことも原因かもしれないが、圧縮処理を行っていないことでコストが増加していると言えるのではないか。
プラスチック資源の分別は市民の関心も高く、今後、排出量の増加も見込まれることから、圧縮処理を行う業者への支援も含め

て、対応を検討していただきたい。

A 再商品化計画の当初の段階では圧縮しない方法で搬出することとしていたが、排出量の増加に伴い効率的な処理ができるよう、大曲仙北広域市町村圏組合環境事業課での設備導入や民間委託等を含めて研究していきたい。



Pick up **3**

高齢者等の移動支援に補助制度

高齢者の通院など、地域の実情に応じた住民同士の支え合いによる移動支援を行う団体に対し、車両の燃料費や保険料などの経費の一部を補助します。対象は、自家用車を使った有償・無償の送迎で、自治会やNPO法人などが運営する団体です。

こんな質問が出ました

Q 地域交通対策事業費の「住民共助交通支援事業」について、交通空白地に該当しない地域において有償運送を実施しようとした場合、制度上の制約により利用者から運賃を徴収できない恐れがあり、持続的な運行が困難になるのではないか。特に、無償運送しか選択肢がない状況となれば、当該地域にとって不公平である上、運転手

の person 費確保も困難となり、結果としてボランティアに依存した運行体制となってしまうことから、制度の整合性を図りつつ、人件費も含めた支援を講じるべきではないか。

A ご指摘の内容を踏まえ、地域公共交通施策の持続性確保の観点から、制度上の取り扱いや財政支援の在り方について、さらに検討してまいります。

Pick up 4

移住者向けに 住宅リフォーム支援事業を拡充

住宅リフォーム支援事業を拡充し、移住世帯を対象に「県外Uターン型」と「空き家活用移住型」の二つの支援枠を新設します。

こんな質問が出ました

Q 移住定住世帯への助成を拡充することだが、大変良い事業だと感じる。現在、具体的に相談を受けている事例はあるか。事前情報をしっかりとつかみ、PR不足にならないよう取り組んでいただきたい。

A 昨年度からの引き続きで1件相談を受けている。PR不足とならないようしっかりと取り組んでみたい。

移住世帯向けの制度内容

対象世帯	補助率	補助上限額	対象工事費 (税抜)
県外Uターン型	30%	50万円	20万円以上
若者夫婦世帯 子育て世帯		80万円	
空き家活用 移住型	50%	100万円	



住宅リフォーム支援事業について、詳しくはこちら

Pick up 5

市営の樹木葬型合葬墓を整備

跡継ぎがない方や墓じまいを考える方からの相談が増えていることを受け、大曲墓園内に樹木葬型の市営合葬墓を整備します。対象は、納骨先がなく自宅などで遺骨を保管している方や、後継者がいないために墓じまいを終えた方などを予定しており、生前予約は行いません。

こんな質問が出ました

Q 合葬墓のシンボルツリーおよび埋葬者名の刻字の有無について伺う。

A シンボルツリーは、いろいろはもみじを予定しており、成長が遅く大木になりにくいこと、寒さや水はけの悪い土地でも生育しやすく、四季折々の姿を楽しむことなどから選定するものである。合葬墓への埋葬者名の刻字は行わない。

Q 合葬墓で宗教者を招き法要を行うことはできるのか。

A お寺等で行っている永代供養ではないこと、また、様々な宗教の方と一緒に埋葬することなどの理由から、納骨時や何回忌等の法要を行うことはできない。

市政懇談会

を開催しました

大仙市議会では、6月21日および23日から27日までの6日間、市内11会場において「市政懇談会」を開催しました。

議員が5班に分かれて地域を訪問し、議会の取り組みや令和7年度当初予算の主な事業について報告した後、市民の皆さまと意見交換を行い、地域の要望や生活に密着した課題や、市の施策に対しさまざまなご意見・ご提言をいただきました。

懇談会の内容やいただいたご意見については、今後発行される市議会だよりやホームページで詳しくお伝えします。

「市政懇談会」への出席者数

開催日	会場	人数
6月21日(出)	はなび・アム (ワールドカフェ方式)	9人
6月23日(月)	協和支所	12人
	大綱交流館	23人
6月24日(火)	花館公民館	9人
	大川西根公民館	4人
6月25日(水)	中仙農村環境改善センター	21人
	藤木公民館	5人
6月26日(木)	さくまろ館	8人
	おおたコミュニティプラザ	10人
6月27日(金)	南外コミュニティセンター	21人
	神岡農村環境改善センター	15人
計		137人

初の試み!

「ワールドカフェ方式」

6月21日、はなび・アム会場では、市政懇談会で初めて「ワールドカフェ方式」を導入しました。この方式は、カフェのような雰囲気です。少人数のグループに分かれ、自由に意見を交わす対話スタイルで、参加者同士が気軽に話せるのが特長です。

当日は、市民9名と市議会議員ら計17名が参加。「防災」「子育て支援」「観光・地域活性化」の三つのテーマ

ごとにグループに分かれ、互いの考えや提案を語り合いました。

参加者からは「話しやすい雰囲気です、とても有意義だった」「他の方のいろいろな意見があり、とても良い時間」など大変好評の声をいただきました。今後も多様な意見を聞く手法の一つとして活用を検討してまいります。



聞いてみたいな
こんなこと



一 般 質 問

一般質問とは？

皆さんの生活に関わる大切な内容について、市議会議員が市に対して質問を行います。今回の一般質問であなたの生活に関する内容はありますか？

質問議員 14人 質問項目 24件

一般質問の全ての内容を動画で視聴できます。各議員顔写真の下にある二次元コードを読み取り、ご覧ください。

山林火災の影響を受けて中止となった地元花火大会について



高橋 徳久
(だいせんのかい)



これまでと同様の支援を実施したい。

このほか、県外からのA
ターナー者に対する支援につ
いて質問しました。

Q 岩手県で発生した大規模な山林火災の影響を受け、協和七夕花火大会が中止となった。全国女流花火作家競技大会としても全国に名をはせる大会であり、来年度以降の開催に向け、市として対応を願いたいかどうか。

A 山林火災の影響により、7月5日に予定されていた協和七夕花火は、地権者からの火災への懸念を受け、実行委員会が中止を決定したものと伺っている。本市としても中止は非常に残念であるが、山林火災を未然に防ぐための対策をしっかりと示し、不安を払拭（ふっしょく）することが重要である。現在、実行委員会において、開催場所を含めた対応策を検討している。市としても関係者の理解と協力を得られるよう協力を続け、再開時には



協和七夕花火大会

5歳児健診について



秩父 博樹
(公明党)



Q 発達障がい発見のための手
がかりとなる多動性や旺盛
な好奇心は、3歳児以降に
よく見られるもので、3歳
児健診から修学前健診まで
は健診の機会がないため、
発見が遅れてしまう。でき
るだけ早期から支援を行う
ことが重要であるため、5
歳児健診の導入を検討いた
だきたいがどうか。

A 5歳児健診は、就学前に
子どもの発達状況を確認
し、一人一人に応じた支援
につなげる重要な取り組み
であると認識している。市
では、教育・保育アドバイ
ザーが保育施設などを継続
的に訪問し必要な支援につ
なげる取り組みを行っている
ほか、令和4年度からは
関係機関の協力をいただき
ながら「5歳児相談会」を
実施してきた。令和6年度
からは医師による診察を取



り入れた「プレ5歳児健診」
を試し、本格実施に向け
た課題の洗い出しを進めて
いる。医師の確保や支援体
制の構築などの課題はある
が、関係機関と情報共有や
意見交換を行いながら、令
和8年度からの本格実施に
向け準備を進めていく。

このほか、子宮頸がん予
防について、透析予防のた
めの糖尿病治療中断者への
受診勧奨について質問しま
した。

公共施設マネジメントにつ いて



青柳 友哉
(大地の会)



Q 「自治体経営」の視点から、
公共施設のコスト、利用状
況等のデータを収集し、「施
設カルテ」を作成してはど
うか。

A 利用情報や運営コストに加
え、改修履歴等を調査し、
施設カルテを作成中であ
る。現状の見える化を図り、
今後の検討に活用したい。

施設カルテを活用し、経営
的視点も加え、庁内の議論
の活発化を図りたい。

Q 市民の理解と納得を得るた
め、データの公表や、廃止・
改修の判断基準の公表等が
重要と考えるが、見解を伺
う。

A 施設カルテをホームページ
で公表し情報共有を図り、
計画決定時は周知・説明に
配慮する。統廃合の判断基
準は、利用状況や老朽度、
避難所指定の有無等を踏ま
え、次期計画策定時に議論
したい。

Q 次期計画の策定と推進に向
けて、データと将来予測に
基づく分析に加え、ハード
とソフト両面の一体的な体
制整備と、組織横断的な仕
組みが必要と考えるが、見
解を伺う。

A 次期計画策定に向け、劣化
調査に基づくライフサイク
ルコスト算出や、更新費用
の見直しを行う。ハード・
ソフト両担当の協働体制を
整え、全庁的な取り組みと
して推進していく。さらに

Q 公民連携や市民活動による
活用推進について見解を伺
う。

A 民間事業者等との連携につ
いては、有効利用や地域活
性化等の観点からも重要と
認識している。

高齢化対策について

Q 健康寿命延伸のための取り組みについて伺う。

A 令和6年度より「健康めえるが測定・相談会」を実施し、測定結果を基に、さまざまなサービスを紹介し、健康維持と意識向上を推進している。

Q 認知症高齢者対策について伺う。

A 認知症に対する正しい知識の普及のための「認知症サポーター養成講座」や、行方不明の恐れがある高齢者等の早期発見・保護につながるための「認知症行方不明者SOSネットワーク事業」などを行っている。

Q 一人暮らしの高齢者の安全対策と孤立を防ぐ取り組みについて伺う。

A 福祉実態調査により支援が必要な高齢者の把握に努め



小笠原昌作
(新政会)



ているほか、交流の場となるサロンや通いの場などへの支援を実施している。

Q 高齢者に対する交通体制について伺う。

A 今年度より住民主体の移動支援に対し補助金を交付することとしている。また共助運行の取り組みを支援するなど、高齢者の移動環境整備に努めていく。

このほか、介護予防の取り組みについて質問しました。



これまでの一般質問に対する市の対応と状況について

Q これまでの一般質問に対する市の対応について伺う。

A 答弁内容を庁内で共有し、調査・検討を経て施策に反映し、対応状況を年2回、議会に報告している。

Q 市民の声を反映した施策と取り組みへの評価について伺う。

A 「市民による市政評価」等を通じて、効果や方向性を検討し、新規実施や見直しにつなげている。各種計画等の策定では、地域や各分野の代表等から意見を伺い、施策に反映してきた。

Q 一体的なまちづくりの進捗と課題について伺う。

A 市全体を俯瞰し、機能の集約・充実、維持・強化を進めてきた。人口減少や生活変化に対応し、地域公共交

通と一体的に、実効性を高めていく必要がある。

Q 地域特性を生かした施策の進捗状況と、地域協議会との連携について伺う。

A 地域活性化推進室がまとめ役となり、地域協議会の意見を反映しながら、特色を生かした取り組みを展開している。

Q 今後の一体的なまちづくりの方向性を伺う。

A 地域資源を生かす「攻め」と、持続性を高めていく「守り」の両戦略を進め、市民と共に価値を創る「共創のまちづくり」を進めていく。



佐藤 隆盛
(市民クラブ)



公園の整備について

Q 桂公園の好立地と広大な敷地を活用するため、駐車場整備や樹木・石碑の移設等を行い一体的に整備すべきである。あわせて遊歩道等を修繕し、県認証の「こどもものえき」に対応したトイレや遊具、あずまやを設置し、子育て世代に優しい公園へと再整備すべきであり、市の考えを伺う。

A 大曲町の桂公園は、現在は健康づくりや子育て、放課後の児童の活動の場として広く利用されている一方で、供用開始から37年が経過し、外周歩道の老朽化や樹木の高木化などの課題がある。市としても駐車場の必要性を認識しており、公園の一体的な再整備と将来像の検討を行う段階にあると考えている。今後は、施設の再



配置や更新、駐車場・遊具・あずまやの新設などを進めていく。トイレ・遊具については「こどもものえき」の要件はもとより、子育て世代のニーズを踏まえて整備したい。



後藤 健
(大地の会)



農業振興策（経営所得安定対策等）について

Q 夢ある園芸産地創造事業などを活用した施設等導入への市補助率および園芸作物への産地交付金について、市単独のかさ上げはできないのか伺う。

A 県が実施している夢ある園芸産地創造事業では、認定農業者に加え、新規就農者や農業元氣賞受賞者に対し補助率をかき上げしている。物価高騰による資材費増へのバックアップが必要と受け止めており、県の動向を注視しながら補助内容を検討していく。また園芸作物の産地交付金は他の振興作物とのバランスを考慮しながら定めており、交付金の配分状況や政策動向を踏まえ、市単独のかさ上げについて検討していく。

Q 「農業と食」に関する活性化推進事業について、農業

分野以外の関係者とも連携したソフト事業の推進が必要と考えるが、市の見解を伺う。

A いぶりがっこ用大根・杜仲とちゅうの葉など特産品の生産拡大、「宵よいの星々」を活用したシティプロモーションなどを通じ「美食産地 大仙」ブランド確立に努めてきたが、ソフト事業の認知度が低いことが課題であり、令和8年度からの次期基本構想の策定に向け、関係機関と連携したブランド力強化による地域活性化を目指した計画にしていきたい。



枝豆の収穫



安達 成年
(大地の会)



高齢者世帯・低所得世帯へのエアコン購入助成について



佐藤 文子
(日本共産党)

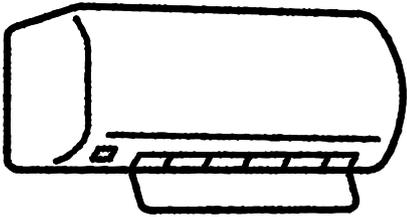


Q 福祉実態調査で、エアコンの設置状況やニーズについて調査は行われたか。

A 今年5月に、ひとり暮らし高齢者世帯および高齢者のみ世帯のエアコン設置状況を調査しており、対象は3589世帯で、このうちエアコンが設置されていたのは2630世帯、未設置は469世帯、不在や外観から確認できなかった世帯は490世帯であった。現在は速報値であり、調査結果を整理した上で、未設置の理由などを検証していく予定である。

Q 高齢者や生活保護世帯を含む住民税非課税世帯を対象に、エアコン購入費助成制度を創設するよう改めて要望する。

A 近年の物価や電気料金の高騰などのため、エアコンの



購入を見送っている高齢者世帯や低所得世帯を対象に助成し、購入・使用につなげることは、熱中症リスクの大幅な軽減につながるものと考えている。今回の調査結果の詳細を検証するとともに、他自治体の状況も確認しながら、制度創設に向けて検討を進めたい。

このほか、改正子ども子育て支援法と国保会計について、あきたこまちRと学校給食について質問しました。

社会福祉協議会の運営について



橋本 琢史
(新国会)



Q 大曲仙北地域全域を福祉特区として、大仙市、仙北市、美郷町の各社会福祉協議会を一括運営できないか伺う。

A 社会福祉協議会は、各市町村において地域の特性やニーズに応じた福祉サービスを提供しており、地域住民にとって地域福祉の向上を図るため欠かせない存在となっている。広域的なサービスの提供について、

地域ごとの特性を生かしつつ、より多くの住民に対して質の高い福祉サービスの提供や、地域間の連携強化に寄与することが期待されるなど、多くの可能性がある一方で、事業によっては、これまで提供していた福祉サービスが低下してしまう可能性も考えられる。まずは、広域的に実施した方が効果的かどうか、個別の事



業ごとに精査するなど、慎重な検討と準備期間が必要と思われるので、各市町の社会福祉協議会の間で協議・検討を重ねていただき、市としてはその協議・検討の過程において、必要な助言や支援を行っていきたい。

人口減少、少子化対策について



金谷 道男
(大地の会)



Q 人口減少、少子化対策の一つとして、地域みらい留学や山村留学事業などを活用し、地域外から小中高生を呼び込む取り組みが必要でないか。

A 人口減少対策は本市にとって喫緊の課題であり、総合戦略の重点施策に位置付けている。

現行の「第3期移住・定住促進アクションプラン」では、子育て世帯をメインターゲットに据え、保育園見学などを含む移住体験や住宅支援等の充実を図ってきた。昨年度は、関東の小学生在が市内で教育留学を体験し、本市の児童にとって有意義であった。引き続き「山村留学」にも通ずる企画を実施していきたい。「地域みらい留学」は、高校生が地域に暮らしながら学ぶことで、地域の魅力を



実感し、関係人口や将来的な移住につながる可能性があり、受け入れ側も含め、交流を通じた人格形成にも好影響が期待できる。地方移住への関心の高まりが続いていることを念頭に、第4期移住・定住促進アクションプランの策定にあわせ、全国の事例を調査研究していきたい。

職員の意識改革とモラル向上について 監査機能の強化について



佐藤 芳雄
(だいせんの会)



Q 不祥事、不正の防止策について、職員の意識改革とモラル向上と併せ、どう取り組んでいるか。

A 綱紀粛正の徹底に努めるため、年度始め、お盆前や年末年始といった時期に、全職員に向け通達している。その内容は、不祥事の防止、関係法令等に基づく適切な執行、交通法規の遵守、就業上のルールの厳守などである。また管理職へのコンプライアンス研修、主幹級職員へのリスクマネジメント研修のほか、職場環境の改善として各種ハラスメント対策などを推進し、職場全体で防止策につながる環境整備に努めている。

Q これまでに執行してきた監査に対する監査委員の見解を伺う。

A 監査に当たっては、リスクの高い分野を重点的に実施している。市の監査基準や中期計画に基づき、限られた資源で効果的かつ効果的となるよう計画的に実施している。

是正措置の確認を通じて※PDAを展開し、指摘事項の着実な改善が図られるよう指導的機能を果たしていく。不正防止のため現金出納等の重点監査や無通告実地確認も行っており、著しく進展する行政DXへの対応も視野に、効率的で効果的な監査の実施に努めていく。



子育て支援の充実について



戸嶋貴美子
(だいせんの会)



Q 障がい児等の障がい者手帳を持つているが支援に該当にならないご家庭を対象に、介護する方の経済的負担の軽減および障がい児の外出支援を図るため、介護する方の運転する自家用車の燃料費の一部を少額からでも補助してはどうか。

A 障がい者福祉サービスは、障がいの等級によって、受けられるサービス量も変わってくることを基本としており、支援内容の拡充等を行わず、引き続き、現行制度の中で、障がいをお持ちの方や、その家族を支援していきたい。

Q 本市では、3人目以降の利用費の一部助成など、子育てファミリー支援事業が大変充実しているが、1人目から2人目への出産の壁を取り払うため、本市独自の

施策で、2人目からの支援等の拡充は可能か。
対象を第2子以降とすることは、県との共同事業であるため対応できかねるが、本事業で利用できるサービスを拡充するとともに、医療費の無償化、在宅保育手当の支給など、子どもの数にとらわれない支援を拡充しており、今後においても、子育て世帯に寄り添った支援を継続していきたい。



大仙市の公共交通について



利恵 利野
(公明党)



Q 循環バスの利用状況について伺う。

A 令和6年度の循環バス利用者は延べ1万5381人で一日平均42人。主に70代から80代の高齢者が通院や買い物で利用している。

Q 循環バスの運行をJR列車の乗り継ぎを見越した時間編成にできないか。

A 循環バスは、分かりやすさを確保するためパターンダイヤで運行している。全ての列車との接続は困難だが、利便性向上は重要と認識しており、主要時間帯の乗り継ぎ状況を踏まえ検討する。

Q 定期券や、一日乗り放題券などを導入できないか。

A 利便性向上や、高齢者など移動手段が限られる方々の外出支援、観光促進にも寄

与する有効策と認識しており、路線再編と併せて「第5期交通計画」の中で調査・研究していく。

Q バスの車内で、地域情報や魅力を発信できないか。

A 車内での地域情報発信は、きめ細やかな行政情報の発信や、観光振興への寄与も期待される。利用者の属性や乗車目的等を分析しながら検討する。

このほか、災害対策について、特産品送料無料キャンペーンについて質問しました。



米の高騰を受け、 厳しい状況にある酒蔵に 対する支援について



山谷 喜元
(大地の会)



Q 酒造原料米の高騰により、
厳しい経営を強いられている
酒造会社に対して経済的
支援が必要と考えるが、市
の所見を伺う。

A 日本酒の原料である酒米は
栽培に手間とコストがかか
り、主食用米より高値で取
引されてきたが、近年の主
食用米価格の高騰により、
主食用米に切り替える農家
が増えつつあり、酒米の確
保が懸念されている。加え
て、酒米価格も上昇したこ
とから、経営に深刻な影響
を与えている。

市では、県酒造組合からの
陳情を受け、酒蔵経営者か
らも切実な声を伺ってい
る。今後、担い手不足や主
食用米価格の高止まりによ
り、供給不足が起こる可能
性が高く、酒蔵の存続自体
に危機感を抱いている。急
激な価格転嫁は消費者離れ

を招く恐れがあるため、主
食用米価格が落ち着くま
で、作付け農家の確保や原
料米の安定供給につながる
一時的な支援が必要と考え
ている。今後、補正予算の
計上や、国への要望活動の
強化を進めていく。

このほか、市の総合計画
をはじめとする各種計画の
策定方針について質問しま
した。



佐藤副市長が退任

しんしん
真摯な姿勢で
市政に尽力し

5月29日に開会した6月
定例会初日、佐藤芳彦副市
長より退任のあいさつがあ
りました。

副市長として8年間にわ
たり本市の重要施策の推進
に尽力され、市の発展に大
きく寄与されました。また、
本市議会に対しても常に真
摯な姿勢で臨まれ、円滑な
議会運営に多大なご協力を
いただきました。

長年にわたるご尽力に、
衷心より感謝申し上げます。



豊成小児童が市議会で体験学習

5月28日、豊成小学校の6年生16名が市議会で体験学習を行いました。

議長席に座ったり、議場内の設備を体験したりしながら、議会のしくみや市政との関わりについて理解を深めました。

児童からは多くの質問が寄せられ、市議会の役割や市長の仕事、市民の声がどのようにまちづくりで反映されているかについて、実際の現場で学ぶ貴重な機会となりました。

子どもたちからは、「議員席がふかふかでびっくり」「マイクやカメラの設備に驚いた」「ネームプレートが大仙市のことを知りたくなった」などの感想が寄せられ、政治や行政への関心が高まった様子がかえりました。

市議会では、こうした学習の場を大切にしてまいります。



議員さんながらに堂々と質問



モニターに映る姿に大興奮

高橋敏英議員、佐藤芳雄議員、後藤健議員に 永年勤続者表彰

5月20日に開催された「全国市議会議長会 第101回定期総会」において、高橋敏英議員が在職30年以上の功勞により表彰されました。また、佐藤芳雄議員が在職25年以上、後藤健議員が在職15年以上の功勞により表彰され、第2回定例会初日の本会議開議前に表彰状が伝達されました。

受賞おめでとうございます。



左から順に高橋敏英議員、佐藤芳雄議員、後藤健議員

総務企画常任委員会所管事務調査

4月17日、南福岡コミュニティセンター、南外コミュニティセンターおよび南外さいかい市の現地視察を実施しました。

南福岡コミュニティセンターでは、このたび改築工事が完了し、整備状況を確認しました。プレイルームや研修室、会議室のほか、備蓄倉庫、非常用発電設備、さらには災害時の炊き出しに使える「かまどベンチ」を備えた「あずまや」や太陽光パネルも設置されており、防災拠点としての機能も充実しております。平時の地域活動と非常時の避難対応を両立する施設として、今後、有効活用が期待されるそうです。

南外コミュニティセンターでは、ホール内照明のLED化工事の進捗を確認しました。新しくなった照明で、ホール内はだいぶ視認性が改善しております。南外さいかい市では、移動販売の現状についてご説明をいただいたほか、このたび新任となった、南外地域を拠点に活動いただく地域おこし協力隊をご紹介いただきました。

(総務企画常任委員会)

委員長 佐藤 芳雄



照明のLED化工事の進捗を確認



災害時の炊き出しにも使える「かまどベンチ」

産業建設常任委員会所管事務調査

4月24日、市内2カ所の小水力発電所の現地視察を実施しました。

1カ所目は太田地域にある真木関根小水力発電所を視察し、夏場の水量不足やごみ詰まりを防止するための対応に苦慮していることや水路にごみがたまってくると市職員の手作業による除去作業を行っているなど現場の声を聞いてきました。

2カ所目は、1カ所目の施設と比較する目的で、仙北平野土地改良区が事業主体である仙平太田斉内地区小水力発電所を視察しました。真木関根発電所は水路落差を利用した縦軸回転により発電するのに対し、仙平太田斉内の方はドイツ製の「らせん水車」を県内初として採用したものでした。一般家庭約80世帯弱の年間使用電力量に当たる25万9千キロワットアワーの発電が可能で、年間売電収入予定を800万円弱見込んでおり、売電収入は土地改良施設の維持管理等に充てるとのことです。

最後にオープン前の中里温泉を視察しました。建設中も視察しましたが、今回はオープン直前でありスタッフや業者の方々が最終チェックを行いつつ、最後まで入念な準備を行っておいりました。

(産業建設常任委員会) 委員長 挽野 利恵



新しくなった中里温泉



仙平太田斉内地区小水力発電所

きかせて！あなたのミライ

大仙市の小学生が将来の夢を語るコーナーです。



すずき 鈴木 走 さん (清水小学校5年)

■学校では、おにごっこやドッジボールが好きです。休みの日には、外でバスケ、ゲームをしたりするのが楽しみです。■好きな教科は体育です。運動で汗をたくさんかくと気持ちがいいからです。■将来はバスケットボール選手になって、NBAに挑戦してみたいです。■ワクワクすることは、学校では学習発表会です。練習や準備も楽しみです。家では家族でするバーベキューです。■大人になっても、今と同じ仲良し姉弟4人でカフェに行き、子どもの頃の思い出を楽しく語り合っていると思います。■大仙市には、これからもずっと平和であってほしいです。大人も子供も楽しめる大きな公園や動物園、水族館がたくさんできるといいなと思います。ディズニーランド、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンみたいな場所ができれば最高です！

9月定例会

日	月	火	水	木	金	土
8/17	18	19	20	21	22 本会議 議案等上程	23
24	25	26	27	28	29	30
31	9/1	2 本会議 一般質問	3 本会議 一般質問等	4 各常任委員会 議案審査等	5 各常任委員会 議案審査等	6
7	8 各常任委員会 議案審査等	9 各常任委員会 議案審査等	10	11	12	13
14	15	16	17	18 本会議 委員長報告等	19	20

※定例会日程は変更される場合があります。
変更内容は、議会ホームページでお知らせします。



市議会だよりのご感想などをお寄せください

市議会だよりのご感想や大仙市議会に対するご意見、ご要望などを次の方法により、議会事務局へお寄せください。

- ①郵送 ・宛先：〒014-8601 大仙市大曲花園町1番1号
大仙市議会事務局あて
- ②FAX ・番号：0187-62-8822（議会事務局専用）
- ③メール ・アドレス：gikai@city.daisen.lg.jp

こちらの二次元コードからメールを作成いただけます。



議会の傍聴について

本会議および委員会は公開されており、傍聴することができます。傍聴をご希望の方は、議会開会日に、市役所大曲庁舎3階、議会事務局窓口までお越しください。

請願・陳情について

9月定例会で審査される請願・陳情は、8月14日(木)までに提出されたもので、それ以降に提出されたものは、次の定例会での審査となります。

編集 後記

委員

小笠原昌作

■初夏に咲いたあじさいや花菖蒲も盛りを過ぎ、いよいよ夏本番ですが、連日の暑さに早くも夏バテとなっていないでしょうか。■まずもって長い間大仙市の発展のためにご尽力されました佐藤芳彦前副市長に、心より感謝申し上げます。■6月定例会では、これまでで最も多い14名が一般質問に立ち、さまざまな分野で活発な意見や要望が出されました。■毎年行っている「市政懇談会」では、新たな試みとしてワールドカフェ方式を取り入れ、大変好評をいただきました。市政に対する市民の「心の声」をしっかりと受け止め、議会としての役割を果たしていきたいと考えております。■各地域での開催においても活発な意見交換が行われ、課題や難題が随所に出され、時には耳の痛いところもありましたが、地域の実情などの声を大切に受け止め、議員全員が果たすべき役割を身を感じたところです。■最後になりましたが、私は毎日気の向くまま一時間近く歩いていますが、精神統一と健康には最高です。これからも体を動かすことを続けたいと思います。皆さんも熱中症にくれぐれも気を付けて、健やかな日々をお過ごしください。

FacebookとInstagramで議会の情報を発信しています



Facebook



Instagram